

無効資料調査報告書サンプル

1. 報告書の概要

- ・エクセル形式の報告書となります。以下に示す「評価シート」と、「比較シート」とからなります。
- ・このエクセルと、抽出した公報とを CD-ROM に格納して納品いたします。

2. 評価シート

A. 請求項の文節		最終抽出公報				
請求項 No.	文節符号	No. 14	No. 38	No. 57	No. 63	No. 128
		特開昭62-298***	特開平03-65**	特開平05-23****	特開平07-77***	特開平11-2*****
		1987/12/25	1991/3/20	1993/1/27	1994/5/20	1998/12/22
1	1-1	5	5	2	5	5
2	1-2	1	1	5	1	5
3	1-3-1	5	5	5	5	5
4	1-3-2	2	2	5	2	5
5	1-3-3	5	5	3	3	4
6	1-4	5	5	3	3	1
7	1-5	3	3	5	3	1
8	Claim 2 2-1	5	5	3	4	1
9	Claim 3 3-1	5	5	4	5	1
10	Claim 4 4-1-1	5	5	5	5	1
11	4-1-2	5	5	5	5	1
12	Claim 5 4-2	1	3	2	1	1

A. 請求項の文節

無効にしたい特許の請求項を文節（以降、構成要件）に区切ります。

B1.2. 公報番号

B1 は、無効する特許（本例では米国特許）、B2 は、抽出した特許の番号です。それぞれ対象の公報が開くようにハイパーリンクします。

C. 対比結果

構成要件と、抽出した文献の開示内容と、を対比した結果を関連度で示します。この関連度は3～5段階程度の評価としています。このようにすることで、新規性はもちろんのこと、文献の組み合わせによる進歩性の判断を容易に行うことができます。

- * 注意：評価につきましては、一調査員のコメントであり、最終的な判断ではありません。このような判断が必要な場合、別途弁理士の鑑定が必要であることをご了承下さい。

3. 比較シート

エクセルのフィルタの機能を用いることで、必要な特許を簡単にフィルタすることができます。

A. 構成要件

B. 対比結果

C. 開示箇所

D. 備考

E. 代表図

A. 構成要件

2項の「A. 請求項の文節」と同様です。

B. 対比結果

2項の「C. 対比結果」と同様です。

C. 開示箇所

構成要件毎に、抽出した特許の開示箇所(段落番号、頁番号、行)と、その具体的な開示部分とを記載いたします。

D. 備考

評価の根拠等を記載いたします。尚、特に関連するもの、開示のなかったものに対しては備考を省略することがあります。

E. 代表図

無効としたい請求項に、特に関連すると思われる図面を記載します。

4. 報告書の注意点

- 本報告書のサンプルは、適宜修正されることがございますので、その点はご了承下さい。
- 評価、コメント等は、一調査員の視点からのもので、最終的な判断ではございません。最終的な判断が必要な場合は、別途弁理士の鑑定が必要なことをご了承下さい。